

授業科目(ナンバリング)	航空業論 (GB209) (実践的教育科目)			担当教員	竹田 文雄 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
航空運送業の歴史を概観すると共に、史上の転機となったLCC（ローコストキャリア）の台頭と定着による航空業界の新しい動き、そしてFSC（フルサービスキャリア）の運営形態の進化を学修する。 ・航空運送業界の発展史を踏まえた上で、航空会社の運営、業務、サービスの変遷の実像を理解する。 ・地方創生・地域活性化・観光促進における、航空会社が与える影響と航空会社の役割を考察する。							②⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・航空運送業界（旅客、貨物、郵便）の現状についての理解を深め、この事業の特徴やこれからの在り方を説明することができる。 ・航空便の就航により、地域がどのように変貌するのかについて理解し、説明することができる				・課題レポート ・随時試験	50% 15%	
情報収集、分析力	FSCとLCCとの相違点や利用者としてのメリットデメリットを比較し、説明することができる。				・随時試験	20%	
コミュニケーション力	学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践ができる。				・授業参画度	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
随時試験35点（小テストを授業11回目と15回目の2回に予定。） 課題レポート50点（評価基準：課題主旨の理解度と記述内容の明快度。提出期限は15回目授業終了後1週間以内。） 授業参画度15点（評価基準：授業課題への取組み姿勢、質問・コメント等の有無とその回数。） 諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していく。							
授業の概要							
担当教員の海外/国内旅行事業実務経験と知見による実践的授業である。戦後日本の航空業界の歴史を踏まえた上で、既存大手航空会社がLCCに代表される新規航空会社とどのような顧客獲得競争を繰り広げているのかを理解する。そして、その中でどのように顧客サービスの向上、収益の向上、そして安全運航を目指しているのかを学ぶ。また航空運送業の全体像の把握と理解を進める中で、航空運送業の今後の課題を考察していく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に定めない。 指定図書：『第3版 最新航空事業論』井上泰日子著 日本評論社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
航空運送業界の競争を含めた内部環境を学ぶことによる、関連産業も含めた航空業界全体への興味や関心の向上を期待する。また実践的な学びとするべくトピックス解説等も適宜行いつつ授業を進めていく。なお「地方創生・地域活性化・観光促進における、航空会社が与える影響と航空会社の役割とは？」を課題とするので、この点に関する自身の考え・意見を確立して欲しい。加えて「欠席・遅刻・早退・私語」の無い授業進行への参画も期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習 ・予習は書き表すこと。
1	はじめに、航空運送業とは	授業の進め方のガイダンス。 航空運送業の概観・特性等について学ぶ。	予：シラバス読込み。 復：航空運送業についての再確認。
2	航空会社の各種業務内容	航空会社内の各業務内容を把握し、それぞれが果たす役割を理解する。	予：航空会社の各部門の業務内容を考える。 復：各業務内容の再確認。
3	航空運送業の歴史（1）	第二次世界大戦後の民間航空発展の足跡と航空自由化に至る航空運送業界の歴史を学ぶ。	予：シカゴ条約の概要を確認する。 復：20世紀航空運送業の変遷を再確認。
4	航空運送業の歴史（2）	オープンスカイ協定と航空自由化への動きを学ぶ。	予：航空自由化の意味を考える。 復：オープンスカイと航空自由化の再確認。
5	航空運送業の歴史（3）	日本の航空業界の歴史、45/47体制とは何かについて学ぶ。	予：JL/NH/BC/GK/MM/6J/7G/OCは何を示すか？ 復：45/47体制の再確認。
6	航空運送業の歴史（4）	日本における「LCC」、「第3の航空会社」登場の背景と現在の国内線の現状を学ぶ。	予：LCC、第3の航空会社の意味を考える。 復：LCC登場の時代背景を再確認。
7	LCCの出現とその影響（1）	「LCC」がどのような時代背景の中から出現してきたのか。そのビジネスモデルを学ぶ。	予：LCCとFSCのWEBサイトを確認する。 復：LCC/FSCの相違点は？
8	LCCの出現とその影響（2）	「LCC」の台頭による「FSC」の戦略の変遷について学ぶ。	予：FSCの対LCC戦略について考える。 復：FSCの対LCC戦略の変遷を再確認。
9	航空会社のマイレージ戦略	航空会社のマイレージ戦略について学ぶ。 (ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。)	予：マイレージの利便性を考える 復：マイレージ戦略再確認
10	航空会社のサービス向上の手法（1）	航空会社の「ロイヤルティ（再利用意向）」「他者推奨意向」「顧客満足度」向上の為の手法を学ぶ。 (ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。)	予：サービスとは何か？を考える。 復：本日の要点の再確認。
11	航空会社のサービス向上の手法（2）	航空会社のソフトサービス戦略としての機内サービス等のあり方について学ぶ。 (ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。)	予：客室乗務員の業務を考える 復：本日の要点の再確認。
12	航空会社の路便戦略	路線、便数、発着時間、運行機材等がどのように決定されて行くのかを学ぶ。	予：長崎空港発着各社の運航状況を確認する。 復：路便設定の再確認。
13	航空会社の販売戦略（1）	航空会社の販売、WEBシフトとその利便性を学ぶ。	予：航空会社のWEBサイトを再確認する。 復：販売手法の再確認。
14	航空会社の販売戦略（2）	航空会社の販売、収入の最大化に向けた手法を学ぶ。	予：レベニューマネジメントの意味を調べる。 復：販売手法の再確認
15	全体のまとめ	航空業の現状を確認し、今後の課題点を考察する。	課題レポート制作上の質疑・相談。